



新年あけましておめでとうございます。  
2017年もよろしく願いいたします。  
研究所スタッフから、ご挨拶をさせていただきます。



◇今年に入って明治神宮に行く機会がありました。「明治天皇踐祚(せんそ)150年」の看板を見て、遠い昔のようでもあり、高々150年かあと複雑な心境でした。秋の大政奉還もありましたが、その2ヶ月半前、ドイツ・ハンブルクの書店で『資本論第一部』が出版された年でもあります。昨年も終わる頃、協同組合がユネスコの無形文化遺産に登録されたとのニュースが入ってきました。それを提案したドイツでは150年前、近代への突破口として、結社の自由と民主主義を謳ったプロイセン協同組合法が成立しました。普通選挙制が精々1カ国程度しかなかった時代、男女が当然のごとく組合員として表決権を行使する協同組合制度ができたということはなんと画期的なことだったのでしょうか。これは、同年にイギリス議会在、ジョン・スチュアート・ミル建議の婦人参政権を否決した事態からも分かります。そういう点で今年は、身も心も新たに、根源的な協同組合の源流を社会との関係で明らかにする研究を進めたいと思います。

(岡安 喜三郎)

◇協同組合という型が、なぜ21世紀の今となっても「ポスト近代」の旗手にならないのか。巨大な資本主義循環システムの前に圧搾され片隅の方にいるだけか。なぜ政治家、市民から協同組合への期待の高まりが生まれえないのか。民主主義(社会正義)の経済・経営モデルとは、協同組合のことではないのか等々、元旦から起きたまま苛立つ「正夢」を見ている。

協同組合の歴史と原理と思想哲学に欠陥があるというなら、その修正と検証作業は現実の運動と研究からしか塗り変えられない。

(上平 泰博)

◇昨年一年間は、市民革命を経て賃労働—資本という社会編成化形態の法次元での考察に明け暮れました。労協連の第36回定期全国総会(2015)で開会あいさつをした関係で、第37回総会(2016)では閉会挨拶を行うことになっており、開会あいさつでは、協同組合運動を法制度史の観点から見ると第三の転機に遭遇していると述べました。ところが、そこでは、第三段階で協同組合はアイデンティティをどのように設定できるのか、これについて明快な解がつかめず、閉会挨拶で述べる宿題としました。

この宿題に応えるために、経済学的意味合いでの労資関係と法的意義での労使関係、これら双方の成立を英仏独に素材を求め、17世紀より20世紀末まで比較研究を行いました。

自分なりの回答を得ました。しかも、協同労働者、協同労働について改めて考察し直す機会を得、法制化運動にかかわっての争点理解を深めることができました。

本年は、法制化運動の再起動にともなう業務に従事しつつ、一昨年から昨年春にかけて検討をおこない連載を展望し作成した原稿「社会的経済及び連帯経済に関する法律の構造」(2014、フランス)に手を入れる一年となります。(島村 博)

◇昨年は協同総研25周年記念集会を盛会の上で開催でき、今年は無事に26年目を迎えることができました。今年、私は「改造」の年にしたいと考えています。それは25年の「協同を問い続けた」歴史を基礎に、研究所を新たに作りなおす時代に入ったと考えるからです。協同総研5原則の振り返りとともに、法制化後を見据えて、地域づくり・仕事おこし等の協同労働の協同組合の社会化・地域化されるときに具体的問いを鮮明にし、それを解決するための研究をしていきたいと思えます。その問いの1つとしては、25周年集会ででも提起がされた「協同組合と労働のあり方」「よい仕事と社会連帯経営などの協同組合の経営論」「協同労働という働き方」とともに、連帯経済を深めていきたいと思えます。またプライベートでも「肉体改造」に取り組み、錆びついたからだを再起動し、運動能力をさらに向上できる1年を過ごしたいと思えます。(相良 孝雄)

◇あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年、2016年の協同総研では労働者協同組合・運動が連帯経済および社会的経済の担い手として確認されました。これは、年明けの社会の動向があらためて働き方や雇用のあり方が問われていることから重要な課題となっています。

また、実践的には3月4日・5日に「第12回全国若者・ひきこもり in 東京 協同実践交流会 - 生きづらさに抗して、ともに生きる社会をつくる -」が開催されます。本集会では、「実践者同士の出会いと交友、学びの場」を基本に据えて、社会的な困難な課題を「協同実践」を通して解決する道を模索していく集会として期待が集まっています。(楠野 晋一)

◇今年の目標は毎日自炊をすることです。外食やレトルトという選択肢もありますが、健康を考えると自炊が一番だと思います。いろいろ試してみたのですが、「買った野菜をその日の内に全て切り、保存する」というテレビで紹介されていた方法が、私でも続けられそうでした。一年間がんばってみようと思えます。

また、埼玉協同連帯ネットワーク会議や労協センター事業団の子ども・放課後等デイサービスプロジェクトの活動にも引き続き参加しながら、学び、情報を発信していければと考えています。今年もどうぞよろしくお願いいたします。(岩城 由紀子)